



NISHI EYE HOSPITAL

西眼科だより

Nishi Eye Hospital

第6巻3号

(季刊誌)

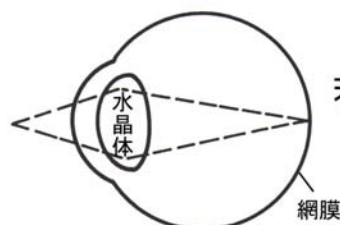
2004年7月発行

編集責任者：倉橋美雪

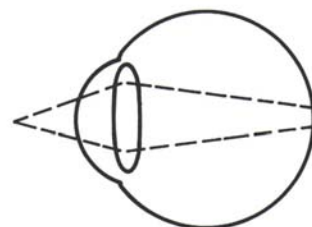
西眼科病院 〒537-0025 大阪市東成区中道4-14-26 TEL: 06-6981-1132
<ホームページ><http://www.nishi-ganka.or.jp> <e-mail>office@nishi-ganka.or.jp

老視(老眼)について

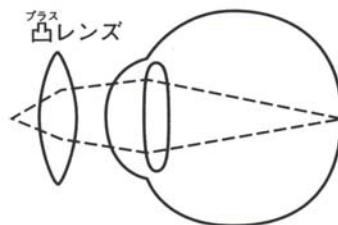
老視(老眼)とは「加齢変化により調節機能が減退し近見が困難になった状態」です。分かり易く言えば「ピント合わせの力が弱ってきている」ことです。私達の眼は自動焦点カメラのようになっていて、見ようとする対象物までの距離に応じ水晶体の厚みを変え、網膜にピントのあった像を結びます。この働きのことを「調節」といい、調節する力を「調節力」と呼びます。10歳を越えると、年と共に調節力は衰えていき、一般には40～45歳頃から老眼を自覚し始めます。



若い人
水晶体がよく膨れるので
近くの物のピントが合う



老眼の人
水晶体がよく膨れないので
ピントが合わない



老眼のメガネ
網膜にピントが合うので
近くの物が見える

老眼の初期症状としては「本や新聞などを読む距離を、少し遠くすると見える」「朝新聞が読めても夕方になると見えにくくなる」「すぐに目が疲れるため長時間の読書ができない」「細かい物を見る作業をしていると、だんだんピントが合わなくなる」などがあります。自覚症状には個人差があり、遠視の人は早くから症状が出る傾向があります。近視の人は元々近くが見えやすい状態のため、老眼を自覚するのが遅くなります。しかし、近視の人も遠くがよく見える眼鏡を掛けた状態では近くが見えにくくなります。これが老眼の症状です。

治療は「近用の眼鏡を装用する」ことです。老眼鏡は凸(プラス)レンズを使用しますが、近視の人は近視の度だけ少なく、遠視の人は遠視の度だけ多くなります。

軽い近視の人は普段使用している眼鏡を外すことで近くが見えやすくなり、また強い近視の人では年齢に応じた度数を減らすことで近くが見えやすくなります。遠視の人は普段使用している眼鏡の度数に年齢に応じた度数を追加します。正視・近視・遠視、いずれの場合にも年齢と共に調節力が弱くなっていくので、老眼鏡の度数を年と共に変えていく必要があります。

人それぞれですが、視力が左右同じとは限りません。できあいの老眼鏡を店でよく見かけますが、何か確認するために使用したり、ちょっとサインをするのに使用するぶんには事足りるかもしれませんが、読書や仕事をする時には「自分の眼にきちんと合った眼鏡」の方が快適です。読書に適切な距離は30～40cm位ですが、仕事上での必要な距離は「人それぞれの距離」があります。必要な距離で自分が楽に見える眼鏡が最良の物となります。老眼鏡を作成する時は「使用目的を充分考慮して」検査を受けてください。

レンズにも多くの種類があります。近くを見るためだけの「単焦点レンズ」や遠くと近くの両方を見るための「多焦点レンズ」です。一番楽に見ることができるのは単焦点レンズですが、掛けかえる必要があります。多焦点レンズは掛けかえる必要はありませんが、多少の使いにくさがあります。それぞれ利点も欠点もありますので、眼鏡を作成される時は「主な使用目的に合わせて」レンズを選ぶと良いでしょう。詳しくは検査員やドクターに御相談ください。

ドクターの(夏休み)休診日

7月14日(水)～ 7月23日(金)：植村

8月 9日(月)～ 8月13日(金)：院長・中川・三浦・有本・長尾・佐藤

8月12日(木)：宮本・浜田

9月 6日(月)～ 9月10日(金)：渡部

9月13日(月)～ 9月17日(金)：白石・図師

9月27日(月)～10月 8日(金)：岩西

休診日は予定です。都合により変更する場合がありますので、つど御確認ください。

4月より 三浦星治(みうらせいじ)先生

5月より 有本佐知子(ありもとさちこ)先生

6月より長尾絵奈(ながおえな)先生が

着任されました。よろしくお願い致します(～o～)

外来診察担当医表は受付カウンターに設置しております。

ご自由にお持ち帰りください!

